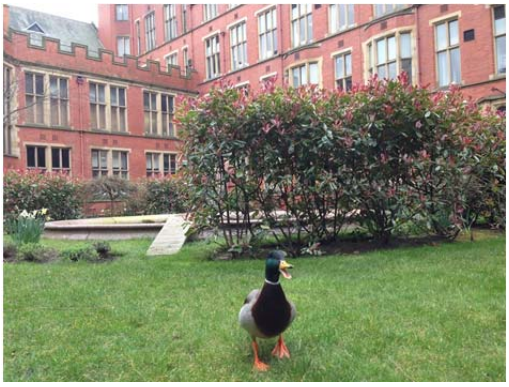
2015/9~2016/6 全学交換留学(The University of Sheffield)



Firth Court

私は、東京大学の全学交換留学制度を利用して英国のシェフィールド大学に 1 年間留学しコンピューターサイエンスを学びました。初めて薬学部から派遣されたとのことで、自分の経験談が留学に興味のある人に少しでも役に立てばと思っています。

小さい頃から海外に行くことが多かった自分は、中高の環境や周りの大人や友人の影響もあって、大学入学以前から海外志向の強い人間でした。これは単純に、全く異なる環境、及び、そこに住む人々に対する好奇心と、グローバル化が進む中で避けることのできない海外の優秀な人間との競争に対する危機感に由来しています。大学入学以後、長期休暇ごとに海外大学のプログラムに参加することで"海外"と自分のキョリを推し測り、自らを鼓舞してきましたが、あくまでも短期の滞在ではその国の表面的な部分しか見えていない印象があり、長期間の滞在によって海外の学生とより深い関係を築きたいと考えていたため、交換留学を決意しました。

シェフィールド大学は学生の 25%が留学生であり、これは東京大学の倍以上です。国際色豊かな環境で多様な同年代の学生と大学生活を送れる環境はとても魅力的でした。薬学部 4 年からの留学で、薬学関連の科目は一通り学習し終えていたため、留学先では全く新しいことを学ぼうと思いました。これには、自分に新たなバックグラウンドを身に付けたいという思いと、アドバンテージのない分野どこまで通用するか試したいという思いがありました。コンピューターサイエンスを選んだのは、IT がますます身近の者になり、種々の学問領域に応用され、影響力を強めている中で、それを正しく理解しておくことが必要であると考えたからです。シェフィールド大学のコンピューターサイエンスコースはチームプロジェクトが多く、海外学生と深く関わる絶好の機会が提供されていたため、最終的にシェフィールド大学でコンピューターサイエンスを学ぶに至りました。

シェフィールド大学に到着するとまずは 2 週間ほど新入生を歓迎するイベントが行われます。これらのイベントの中で、大学の環境を知り、また、数々の国から来た同期と仲良くなっていきます。自分はアイスブレイクのイベントに頻繁に参加し、多くの人と知り合っていきました。当然ながら、イギリスで日本人に出会うことはほとんどなく、出会う人々が皆国籍の異なる人であるという状況に感激し、海外生活の始まりを実感していました。このようなイベントは新入生歓迎期間が過ぎた後も、定期的に行われており、ハイキング、スポーツや文化の体験、語学交流などを通して交友関係を築くことができます。

The Diamond

2 週間が経つといよいよ授業が始まります。授業はほとんど、講義と実践からなっているので講義が終わるとすぐに課題が出され、チームや友人と議論しながら知識を定着させていきます。コンピューターサイエンスは Java, Ruby, HTML, CSS, JavaScript, jQuery といった実用的なプログラミング言語を学ぶ授業と、人工知能、コンピューターアーキテクチャ、ネットワーク、アルゴリズム、数学といった理論を学ぶ授業とがあり、学習範囲の広さと課題の多さから大学内でもハードなコースだったようです。コースの中には、ロボットを動かしたり、ウェブサイトを作ったりといったチームプロジェクトもあり、一人でコードを書くだけではなくチームで一つの結果を出すことも学べるようになっていました。シェフィールドの街自体はイギリス 4 番目に大きい都市とはいわれるものの実態は小さい田舎街であり、穏やかで勉強に集中できる環境です。そのためか、24 時間空いている図書館には常に数百人は生徒がいて、熱心に勉強していました。

授業の中で特に印象に残っているのは、web サイトを作るチームプロジェクトです。実際にクライアントから出された要求を満たすものをチームで作り上げるのですが、最終的にこのプロジェクトは炎上してしまいました。ただ、この経験からとても多くのことを学びました。まずは、チームをまとめることの難しさです。例えば東大生のみのチームであったら言わずとも理解し合えるようなことも、皆のバックグラウンドやスキルレベルの異なるチームではコミュニ

ケーションがうまくいかず、簡単なことですら無駄に時間がかかることが多々ありました。次に、評価軸の違いが挙げられます。もちろん、一概に言うことはできませんが、黙って高いクオリティのものを作り出す職人気質の強い日本人に対して、イギリス人はどんなに些細のものであっても今世紀最大の発明かのようにアピールする傾向がありました。私がいた環境はイギリスでしたので、クライアントの反応が良かったのは後者でした。我々日本人からすると、やはり中途半端なものを作っていてはたいしたことはないと思うかもしれません。しかし、おそらく相手もこちらのことを、良いものを作ってもうまくアピールできないなら意味がないと思っています。結局のところ、相手の能力は自分の評価軸でしか評価できないので、互いの評価軸の向きが異なるほど、自分から見た相手の、相手から見た自分の能力の射影は小さくなってしまいます。この経験から、似通った評価軸をもつ人間だけの環境で安住してしまうと、いざ評価軸が変わった際に順応できないため、今後、多様な評価軸を経験することで、アウェイの環境だけでなく、社会が評価するものが時代を経て変わったときでも普遍的に評価されるように自分の能力の向きをチューニングして能力を伸ばしていく必要があると感じました。

長期にわたって海外に住んでみると、やはり、不便な点も出てきます。バスや電車は来なくなったり、突然水道が止まったり、カードをスキミングされたり、道を歩いていると瓶を投げられたり、隣の住民の騒音に悩まされたり、送った荷物が届かなかったり、ひとつひとつはたいしたことはないことでも束になるとなかなかこたえるのですが、おかげで少々のトラブルでは動じなくなりました。ただ、思い返してみると、日本は便利で人も親切でものすごく平和な国であると実感するとともに、日本では経験しないようなトラブルに巻き込まれた際に自分の弱さを知ることで、よりタフな心を手に入れることができたと思います。

私も最初に留学を考えていた頃は、単なる憧れに過ぎなかったかもしれません。しかし、実際に行ってみると憧れと現実の違うものだなと思います。ただ、何もかもがうまくいく環境よりトラブルが起こるような環境の方が、自分の強み・弱みがわかってくると思います。もちろん、楽しいこと、うれしいこともたくさんありました。でもやっぱり、辛いこと、悲しいことを乗り越えた時も

強く印象に残っています。海外留学なんて今の時代大して珍しいものでもないというのはその通りですが、経験すると話で聞く以上に思うところは強いはずです。自分はまだまだな人間ですが、今回の留学で少しは自信がつきました。

Alpaca Farm